



井の頭恩賜公園
開園100と2
周年 2月

ご購入は、書店かぶんしん出

..0422-60-2211) まで

澄み切っていた井の頭池の水が、今は緑色に濁っています。池の水の中には、肉眼では見えないほど小さな、いろいろな種類のプランクトンが暮らしています。上の写真はそのほんの一部です。日光をエネルギーに、水中の二酸化炭素と窒素とリンなどを材料に光合成をして増える植物プランクトン（A～H）と、それらを食べて生きる動物プランクトン（I～L）

ミジンコなどの動物プランクトンは、植物プランクトンを食べて減らす一方で、小魚などの餌になります。下の写真は、七井橋の照明に集まる動物プランクトンを食べている小魚です。植物プランクトンも動物プランクトンも池の生態系を支えているのです。ほんの少し環境条件が違っただけでプランクトンの構成が大きく変わるのも興味深いことです。例えば、Eは今年も増えている藍藻、Fは2015年に優先した藍藻です。プランクトンの様々な形を楽しむには顕微鏡が必要ですが、機会があればその世界を覗いてみることをお勧めします。池の水がそれまでとは違って見えるようになるでしょう。



採食中の小魚

Downloaded from <http://ajph.org/> on November 10, 2015

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。
アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。
瀬能けい子さんは母親。

連載絵本
アオサギ爺さんの巻
その3

● 井ノ上 東株電Fメ
● 井ノ上 協東東井NP一
● 井ノ上 制株

井の頭恩賜公園
開園100と2
周年 九月



公的な資料だけでなく、個人所蔵の写真や絵はがきも丹念に収集してまとめました。大正・昭和・平成と時代の要望に応じてきた井の頭公園の歴史が、生き生きと蘇ります。

鳥類や昆虫、野草、粘菌に至るまで、井の頭公園で観察することのできる生きもの200種余りを収録しています。公園散策のお供にぜひ!

大人も子どもも
楽しめる身近な
いきもの☒鑑です

♪ 楽園はよみがえるか

カイツブリ通論

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる、小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

見守る人々

6月18日現在、井の頭池のカップルは6組で、産んだ卵の総数は約50個です。しかし、そのうち23個が孵化前に失われ、孵化したヒナも8羽が途中で消えたため、生存しているヒナは15羽、親元を旅立った若鳥が1羽です。餌は潤沢なのに、安定した巣を作り安全に子育てできる場所が足りないのと、天敵も増えているのが、厳しい繁殖成績の理由です。

詳しい情報が集まるのは、多くの人が見守っているからです。以前からカイツブリを観察している人や写真を撮っている人も数人いますが、圧倒的に多いのは、可愛いヒナとそれを懸命に世話する親鳥を目にして、新たにファンになった人たちです。カイツブリを観るために双眼鏡を買った人も少なくないようです。カイツブリが多いと事件も多く、どの人にも刺激的です。カイツブリの劇的な増加をもたらした「かいぼり」は、身近な野生の生き物を知り、その暮らしについて考える絶好の機会を多くの人々にもた

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://tnt-lab.eco.coocan.jp/>

幕末の井の頭の風景から、幕府の森林政策が見えてくる。

去る6月10日、武蔵野ふるさと歴史館で催された講座「井之頭御林にみる江戸幕府の森林政策」で、幕末の井の頭の植生について学んできました。お話は、国文学研究資料館の准教授、太田尚宏先生。現在日本が抱える森林問題への警鐘から始まる視野の広い内容でしたが、ここでは、幕末の植生に絞ってお伝えします。



▲太田先生の「井之頭御林と江戸・東京の水源」が編集されている「森林の江戸学Ⅱ」（東京出版）



▲天保5(1834)年発行の「江戸名所図会」を見ると、松が多いように見受けられる。

ちょっと想像してみてください……森の木の27%がクリで、25%がマツ。残りの4割がクヌギ・コナラ・シイ・カシ類・ケヤキなどの広葉樹。そして針葉樹のヒノキ・サワラが1割弱。それが幕末期の井の頭の「御林（おはやし）」の風景です。今と比べて、クリとマツの多さが際立ちます。

この樹種の記録は、吉祥寺村の名主の河田家の史料、安政5(1858)年の「字（あざ）井之頭惣木数扣帳（ひかえちょう）」に残されたもので、この植生から、幕府の植林政策が見てとれると指摘するのが、徳川林政史研究所で長年研究を重ねてきた太田尚宏先生です。乱伐の時代だった戦国時代から江戸時代初期を経て、「林政」の理念が形成されてきたのが17世紀末のこと。そして18世紀になると、伐採樹種を制限したり、全国的に植林が進められたりするようになります。その植林政策で、「領主の木」として植樹されたのがヒノキ・スギ・サワラなどで、庶民の木として植樹されたのがクリとマツでした。「領主の木」は、城郭の修築や御殿の建設などに使われる質の高い建築材になります。一方で、クリは耐久性が高く腐りにくいため屋根の葺板や土木材に適し、しかも果実は食べられるので凶作や飢饉の備えにもなる。マツは養分が少ない土壌でもよく育ち、枝は燃料の新炭になり、大きく育てば桁や梁などの建築材になります。

「領主の木」を植樹しても自分たちの利にはできない庶民に、クリとマツを抱き合わせて植えさせることでモチベーションを与えるのが、幕府の林政の狙いだったというわけです。井の頭の当時の風景も、そんな政策の結果だったのです。

さらに詳しく時代と植生の変遷を知りたい方は、「森林の江戸学Ⅱ」をぜひ。

安田知代

安田知代（やすだ ちよ）
編集者、ライター。井の頭公園をまるごとガイドブック『懐かしき吉祥寺 昭和29・40年生』編著。

私と井の頭公園 その35

ひとこと特集 後

このコーナー「私と井の頭公園」に登場していただいた方は、現在まで32人。2回に亘る、印象に残った言葉の後編です。（肩書は当時）

■今の子供たち、特に都会の子はなかなか生き物と触れ合うことが少ないですね、でも、人間は生き物を見つたり捕まえたりすることが本能としてあるんですね、そういうことを子供のときに体験させたいのです。（中略）そのきっかけになる『いきもの広場』が出来たことが一番の思い出かな。（20号井の頭自然文化園園長・成島悦雄さん） ■井の頭池はきれいでしたよ、冷たくてね、藻が多くて下までは見えないんですよ。でも湧き水が出ているところは、水圧で藻がよけていましたね。その上を泳ぐと身体が持ち上がるぐらい噴き出しているんです。（23号井之頭町会会長・岩崎菊男さん） ■野外ステージやアートマーケットでアンプを使っていたりしますが、アンプによる大音量はこの公園にはふさわしくありません。（26号ブルースカイコーヒー代表・宮地泰隆さん） ■自然の驚異的な力を学んだり、多くの仲間ができたことがとてもうれしいですね、とても新鮮です。まだ体力気力は保ちそうなので、モノ覚えの悪さや頑固さなどの老害に気をつけながら（笑）今しばらくかいばり活動に参加させていただきます。（27号井の頭かいばり隊・山口行弘さん） ■業者さんに外来魚の駆除を委託してしまうやり方もあるでしょうが、効果はその時だけのものになります。市民参加方式は運営のための労力が増えますが、比較にならないほどの効果があります。池を守るといふ思いが地域にずっと根付くのです。（30号西部公園緑地事務所工事課課長代理・内山香さん） ■都会の中にありながら、まとまった自然が残っている井の頭公園は大変貴重です。ここなら多くの人に自然の不思議さや面白さを伝えることができます、人間が及ぼしている影響についても考えてもらえないかなと思います。（32号井の頭かんさつ会代表・田中利秋さん） ■戦時中といえば、中島飛行機が空襲でやられたせいか、水族館にゼロ戦のエンジンを隠しているのを見ました。油紙で包んでびっちり詰めて込んでいて、兵隊さんが警備していました。（33号東大総合研究博物館・須田孫七さん）

（聞き手 川井信良）



写真 古賀 親宗（なが もとのり）
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

第14回

1級渡邊安浩のいのけん受験講座

今回は、井の頭自然文化園の問題です。（ ）内に当てはまる言葉を入れて下さい。

- Q1. 2017年5月22日にアクアマリンいなわしろカワセミ水族館から（ ）カワウソのメスがやってきました。
- Q2. オオサンショウウオは飼育下では 50 年以上生きるともいわれていますが、水生物館にいるオオサンショウウオは、2017年5月1日現在（ ）歳です。

今年度が最後の『いのけん』です。楽しくチャレンジして下さい

募集要項配布中です!!

申込期間：[3・2級] 6月12日～7月21日 [1級] 10月2日～11月17日 問い合わせ：TEL.0422-40-5525 / TEL.0422-23-5900

答えは裏面のインフォメーションのところだよ



かいばりの活動が、水環境保全活動特別賞を受賞!



▲2017年6月17日に行われた表彰式には、現場でもタグを組んでいる西部公園緑地事務所担当者とNPO法人生態工房のメンバーが出席。

5月上旬の100周年記念ウィークでは、「チョコツとかいばり隊」や「水上観察会」に多くの人が参加し、「イノカシラフラスコモ」が生えている様子に感動しました!「ますます井の頭池に愛着が湧きました!」など、充実した感想が多々寄せられました。

そして嬉しいニュースも飛び込んできました。「よみがえれ!!井の頭池!」の活動に、公益社団法人日本水環境学会 関東支部から「平成29年度水環境保全活動特別賞」が授与されたのです。地域の市民と協働して取り組んでいること、そして啓発活動によって他地域へも大きな波及効果を上げることが評価されての表彰です。

この活動を推進している西部公園緑地事務所の担当で、工事課の内山香さんが、「井の頭池」の地域と行政との協働事業が、都市域の水辺の自然再生のロールモデルになったら良いなど思っています!と、抱負を伝えてくれました。

『いのきちさん』について

2011年11月1日の創刊号から、井の頭公園の魅力を伝えるミニコミとして隔月奇数月の1日に発行されている『いのきちさん』は、地元の印刷・出版業の株式会社文伸の創業50周年記念事業として制作しているものです。100周年までのカウントダウン新聞として、2017年5月までで発行終了予定でしたが、今のところ年内の2017年11月1日(37号)までは発行する予定です。

『いのきちさん』のホームページができました!更新中!
<http://www.inokichisan.com/>



スマートフォン対応

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
✉ inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。

